

ねじ節鉄筋機械式工法のグラウト注入冶具を開発

～工期短縮、省力化の有効アイテム～

JFE条鋼株式会社

JFE 条鋼株式会社(野村寛 社長)は、この度、ねじ節鉄筋の機械式継手・定着金物へのグラウト注入冶具を開発し、建設現場での適用を開始しました。

近年、RC造の土木、建築施工現場では、鉄筋の接合工法としてカプラー(機械式継手)や定着プレート(機械式定着金具)の採用が増えており、その中でも、工期短縮を狙い、先組み工法(柱や梁の鉄筋を地組して組み立てていく工法)が採用されるケースが増加しています。

しかしながら、型枠設置後に梁部材を建て込む先組み工法の場合は、型枠内の鉄筋接合部のカプラーや柱梁接合部内の定着プレートにグラウトを注入するに際し、配筋が錯綜しているため、従来のグラウト注入ノズルでは狭隘部での作業性が低く、工程に影響を及ぼすこともありました。

そのため、JFE条鋼は、作業性の向上と省力化を目的として、自在に曲がるフレキシブルホースの適切な径選択と、それを金物の注入孔へ誘導する冶具を開発し、施工現場での適用を開始しました。

この冶具を使うことで、柱梁接合部の定着プレートへのグラウト注入や、鉄筋同士の接合部のカプラーへのグラウト注入が、離れた位置からでも可能になり、柱・梁背筋の狭隘部などでの作業性が向上します。

また、注入に際し、無理な姿勢をとることが減り、高所作業の安全性も改善されることとなります。

JFE条鋼では、今後もねじ節鉄筋の機械式工法の普及に努め、施工の省力化を狙った様々な商品の開発や提案を進める方針です。

以上